

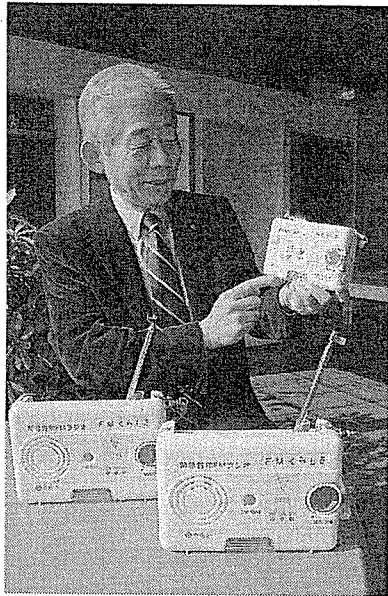
防災まちづくり消防庁長官賞

KCMと倉敷市受賞

告知
緊急
ラジオ

倉敷コミュニティ・メディア(KCM)エフエムくらしき、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送の三社で構成)は、災害時に自動的に電源が入り、避難勧告情報などを伝える緊急告知FMラ

ジオを開発、倉敷市と関係者は「防災活動の励みになる」と喜んでい「第十一回防災まちづくり大賞」を受賞した。同賞は一九九五年の阪



緊急告知FMラジオを手取るエフエムくらしきの大久保社長

神大震災を機に、地域の防災力を高めようと翌年度から始まった。一般、防災情報、住宅防火の三部門に全国から百五十二団体が応募。KCMと倉敷市は、防災情報部門で総務大臣賞に次ぐ消防庁長官賞に選ばれた。

緊急告知FMラジオは、同市で死者二人、床上・床下浸水約五千五百戸を出した二〇〇四年秋の台風被害を教訓に、KCMの技術スタツプらが〇五年に半年がかりで開発した。これまで市が予算をつけるなどして、市内の学校園や公民

館、福祉施設などに約九百台配置。中越地震に見舞われた新潟県長岡市、三条市などでも導入され、県内では笠岡市でも二月から取り入れる予定。エフエムくらしきの大久保憲作社長(五九)は「地域防災はコミュニティメディアの役割の一つ。消防庁に認められたことは大変うれしく、全国にシステムが広まってほしい」と話している。表彰式は二十九日に東京で行われる。(則武由)